

恐怖の必要性

岐阜市立三輪中学校 3年
中島 温梨(なかしま おんり)

最近テレビやインターネットで評論家の方々から「恐怖からは何も生まれない」「話し合いで平和解決を」という言葉を聞きます。平和に解決、とてもすばらしく素敵な言葉だと思います。政治、戦争はもちろん、学校教育においても大切に理想の形だと思います。ですが、人は全員がそんな理想通りに協力し合い平和解決出来る生き物なのではないでしょうか。それが出来ていればロシアやウクライナの悲劇は起こっていなかったのではないのでしょうか。

私はまだ政治や戦争にはうといので、今回は学校教育に関して主張します。私の通っている三輪中学校では、いじめもなく学年、クラス関係なく仲良く、私も毎日楽しく学校に通っています。しかし、もしいじめが起こった場合、誰が止めてくれますか。先生や大人に相談してお互い思う所を見つめ直して「平和に解決しようね」という優しいやり取りが浮かびます。でも本当にそれで解決出来ると思いますか。私はそうは思いません。話し合いだけで解決出来るのであれば先生にも大人にも相談していないと思います。かと言って体罰を肯定する気は無いし、私は受けるのも受けている人を見るのも嫌です。しかし間違っただけの子に厳しく注意出来ない今の風潮はどうなのでしょう。弱い子達を救えないんじゃないのでしょうか。大人でも罪を犯せば刑事罰、交通違反を犯せば減点、罰金が課せられ、その恐さから秩序を保っているのです。それでは少し考えてみてください。大人でも多少の恐さを与えて秩序を守らせているのに子供には何の恐さも与えない教育で間違いを防げると思いますか。私は思いません。

また、こんな話も聞いたことがあります。昔はよく学校で叩かれた。もちろん叩かれるのは嫌だったけれど、先生は叩くことで間違いに気づかせ決して警察沙汰にはしなかった。その結果、被害生徒を助け、また罪を犯した生徒も救うことになる。しかし今はどうでしょう。先生が強く注意すればパワハラ、触れればセクハラ、暴れている生徒を押さえつけたら体罰。こうなると先生はどうする事も出来ません。警察に頼るしかなくなります。真面目な生徒を救えず、一度間違いを犯した生徒を警察に。本当にこれでいいのでしょうか。私は恐怖支配することは望みません。しかし行き過ぎない恐さを教えることは平和や秩序を守ることに必要だと思います。最近闇サイトや闇アルバイトに手を出し、凶悪犯罪に手を染めてしまう。動画投稿が流行っている中飲食店などで間違っただけの行動をし、取り返しのつかない状況になってしまう。大きな社会問題です。記事を見ていると本当に普通の子が手を染めてしまっています。もしかしただけですが、これも今までの教育の中で恐怖を感じたり怒ってくれる人がいなかったりした結果かもしれません。私はそう思います。今は先生だけではありません、いくら悪いことをしても他人の子供を叱ることも出来ません。また先生が強く指導出来ない以上これから先、義務教育であっても停学・退学が取り入れられる時が来るかもしれません。今、是非は別にして戦争に対しての法律の見直し、核武装論が出ています。もちろん戦争は絶対にいけません。ですが、平和理想論だけではダメ、多少の恐さがないと守るものも守れないと人は思い始めていると思います。

最後になりますが私はネットをよく見ます。海外の方から日本の教育、礼儀、モラルは世界一と尊敬されています。それは子供の時に厳しく間違いを正すと言った今までの日本の教育が反映されているからだだと思います。もちろん行き過ぎた罰は反対ですが、子供の頃に間違いを正し、レッドラインを超えないための愛がある多少の恐怖の壁が必要ではないのでしょうか。今一度見つめ直してみてもどうでしょうか。